

走行チェックシート

日付	2011年10月30日 (日)		時間	~	イベント	2011MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ最終戦		
天気	曇り		マシン	GSX-R600 L1	ライダー	手島雄介		
コース	名称	鈴鹿サーキット			気温	20	°C	
	コンディション	DRY			気圧	1022	hpa	
	路面温度	24	(計測時間)		湿度	60	%	
エンジン	スパークプラグ	NGK R0045Q-10		エンジンOIL	シェルアドバンス ウルトラ10W-40			
	ファイナルレシオ	16 x 47(2.937)						
トランスミッション	1st	43/16	2.69	4th	35/23	1.52		
	2nd	40/19	2.11	5th	32/23	1.39		
	3rd	37/21	1.76	6th	32/26	1.23		
フロント	パーツ名	SHOWA KIT		TEN	-6			
	スプリング	9.50	N/m	OIL	SR6 #5			
	自由長	-	mm	油面	130	mm		
	イニシャル	11	mm	残ストローク	mm			
	COMP	-10		突き出し	+2 mm			
リア	パーツ名	SHOWA KIT (316.5mm)		TEN	-8			
	スプリング	100.0	N/m	残ストローク	mm			
	自由長	mm		リンク	STD			
	イニシャル	10.5	mm	リンクロッド	STD	mm		
	COMP(HI)	MIN +1/4		車高	STD±0mm mm			
	COMP(LO)	-10						
タイヤ	フロント			リア				
	銘柄	ダンロップ アンビートン02 (R3 ソフト)		銘柄	ダンロップ アンビートン02 (R2 ミディアム)			
	サイズ	120/70R17		サイズ	180/55R17			
	エア圧	170		エア圧	140			
チェック	順位	11位		ベストラップ	2' 15" 918			
	水温	°C		油温	°C			
	ガソリン	IN	-	ℓ	走行距離	km		
		OUT	-	ℓ	燃費	km/ℓ		

<コメント>

早いもので、もう最終戦鈴鹿ラウンドが始まります。
 JSB同様事前テストは無かったのでぶっつけ本番です。
 こちらの仕様はアジア選手権で走行したデータを元に進めていきました。
 一本目はフロントが高く感じるので減衰を抜いてみました。
 しかし落ち着きの無さが出てしまったので次の走行では、車高を3mmから5mmに上げて内向性(旋回性)を出して、S字コーナーでのスロットルを閉じたときのフロントのふわふわ感を少なくするためフロントのイニシャルを9mmから11mmにしてCOMPは抜いたままTENを-13から-8へ。
 フロントのフワフワ感は感じなくなりました。
 予選中にリアのHICOMPを2回転抜いたところリアの動きが出てきた。しかしパリっとした感じは消えてしまった。
 予選は27番手で終了。
 決勝を見据えて朝フリーではリアのパネレートに100NIを上げてイニシャルを14mmから10.5mmへ。
 リアの動きがでているのでHICOMPを1/2かけて確認。
 予選で使ったタイヤで予選のタイムを上回って終了。
 決勝はここから前後のTENを少し掛け、HICOMPを1/4に戻して決勝へ。
 レースがスタートし、1周目は21番手。そこからほぼ毎LAP順位を一つずつ上げて11位争いグループの先頭でチェッカー！！
 結果は16台抜きの11位で今年のレースを終えることが出来ました。
 今年、手島選手はなかなか結果を残せませんでした。最後に意地と可能性を見せてくれました。
 手島選手ともども、ご協力いただいたスポンサー各社様、MotoMapPチームを応援していただいた皆様に本当に感謝しています。
 おかげさまで今年一年を無事に終えることが出来ました。
 ありがとうございました。

レーシングサプライ
 畑中 健太郎